

文科省の信濃参事官が資料 42-1-1(基本的な方向性)と資料 42-1-2(21 年度施策)を 15 分弱で説明した後、宇宙開発委員による議論が 10 分弱行われた。これで検討を進めて頂いて結構であると言う主旨の結論が出された。(此処で提示された資料は「宇宙開発戦略専門調査会」に提出された資料そのものではなく、議員による審議を受け、修正を加えたものであると信濃参事官が説明した。また、同調査会は来年 5 月に「宇宙開発基本計画」を纏める予定であり、此の資料は其れに先駆けて其の「基本的な方向性」を明確にする為に纏められたものである。)(特に目立つ点は「外交ツールとして、戦略的かつ積極的に活用する。」と言う点であり、宇宙開発委員会での災害監視衛星や温暖化ガス観測衛星の議論に於ける、「諸外国の方々に活用して頂けるのは結構な事ではないか。」と言うものとはニュアンスが違っていて頼もしい。)

松尾委員長:ご意見を伺いたいと思います。どなたからでも結構です。

池上:早速ですけど、GX ロケットについてですが、ご案内の通り一月から GX ロケット評価小委員会を開催して来ている訳で御座いますけれど、5 月に取り纏めました審議経過報告、或いは 7 月に提示しました現段階に於ける見解にも御座いました様に、宇宙開発委員会としてもですネ、此の別添の資料(2)の現状と課題については共通の考えを持って居りまして、で、技術的な見直し、それから需要の見直し、全体計画・所要経費の見直しについて、より明確にして行かなければいけないと言う様な事で、今、まあ、継続審議をして居りますので、

是非、此の辺がもう一寸明確になると言う事を期待したいと思ってます¹。

松尾委員長:評価小委員長の方からコメントが御座いましたが、他に何方か、何か。

中川課長:只今の評価小委員会で指摘された事項、或いは此処の今般の戦略本部の示されている此の方針に記載された事項、まあ斯う云った事を踏まえて、ご指摘の点について明らかにして参りたいと考えて居ります。

青江:災害監視衛星に関して、まあ今般の此れによりますと、目的を拡大した次期観測衛星としての開発を進めると言う方向は非常に大切(?)だと思いますが、宇宙開発委員会は此の夏推進部会で議論した時にも、当然平時に於きましての利用と云うものは大いに促進すべきであると言う、全体として災害時とそれから平時、全体として総合的なシステム運用が望まれると云う指摘をして居りまして、まあ、そう云う方向での運用と云うものを望んで居った、求めて居った訳であります。まあ、斯う云った宇宙開発委員会なり、今回の此の専門調査会でしたっけ、の指摘を踏まえまして、今後どのように対応すると云

¹ 宇宙開発委員会も同じ結論を持っていると言いたいのであろうが、其れは違う。現状把握とその分析・評価に共通点があるが、小委員会は継続審議中であり、宇宙開発戦略専門調査会は決断を示している点が違う。宇宙開発委員会での用語で表現すれば、「企業が行って来て国が行って来なかった部分の開発研究フェーズの作業を完成させなさい。其の完了時に、開発フェーズの移行についての決断を行う。」と言っている。大きな相違である。

う風に考えとけば宜しいですかネ。

阿蘇室長: 今後ですネ、災害監視以外の利用も促進すると云う事で、「だいち」の成果や、それから、あ、踏まえてですネ、運用の在り方等について検討して行きたいと考えて居りますし、また、災害監視以外の目的についてはですネ、引き続き関係府省と情報交換をしながらですネ、意見を聞きながら進めて行きたいと考えて居ります。それで、今後の対応につきましてですネ、また明後日の宇宙開発委員会で報告させて頂きたいと考えて居ります。

松尾委員長: あとは何方かご意見御座いますか。はいどうぞ。

森尾: まああの、全般的にはですネ、国の基本的な宇宙戦略ってのが斯う云うところで議論されて、非常に良い事だと思うんですネ。今迄も宇宙開発委員会って云うのは文部科学省に居て、色んな議論をして、まあ良いんですけども、例えば準天頂衛星なんかは何となく煮え切らないって言いますかネ、此れでホントに推進力が十分なのかって云うのを疑問持ちながら議論してた処が、まあ、多少此れでスッキリする様になるんじゃないかと、期待はですネ、そう云う面で非常にあの、国としての宇宙戦略が斯う云う風にハッキリすると云うのは非常に結構だと思います。まあ、強いて言うと3頁のですネ、宇宙外交について、此れは確か去年ですか、今年ですか、長期計画に纏めた時にもまあ、色んな斯う云う宇宙を外交的なツールとしてもっと活用したい様な事がメンションされたと思うんですよネ。ただ、此処もそうなんですけども、何となくあの、アジア太平洋地域とか、アフリカ中南米と云う、特化して書いてあると

ですネ、じゃあ、アメリカとの協力とかヨーロッパとの協力とかって云う、じゃあどうなんだと言いたくなる²処がありまして、まあ、此れは斯うは書いてあるけど、要するに「国際的にもっと宇宙外交と云うものを推進しますよ」って云う風に受け止めれば良いんでしょうか。

松尾委員長: 他に何か？

青江: ダイモンジ(?)アレなんですけどネエ、「宇宙太陽光発電」につきましてはですネ、「プロジェクトとして考えて下さいよ」って言ってるんですか³ネ。

(少々長い沈黙)

中川課長: 専門調査会のご議論は、未だ斯う云う事も今後のホット(?)として必要だと云う様なご議論が、あの、我々も一寸オブザーブしていて、そう云うご議論だったんで、此れから基本計

² 此れはリモセン衛星データに関連しての記述であり、アメリカ・ヨーロッパが外れて居てもおかしくはない。宇宙探査や宇宙科学に於いては欧米をはじめ宇宙先進国との外交を意識した記述になっている。

³ 名称が出ているだけなので、プロジェクトにする様な意図は無いと考えられる。マイクロ波による電力伝送実験は地上で出来るし、通信や科学観測の為に大型アンテナ技術は太陽発電衛星で活用できる技術である。また、画期的にコストの安い打手段の開発は全ての宇宙利用に対して大きく貢献するものであり、太陽発電衛星がプロジェクト化されなくても、別途進めれば良い話である。これ等が整った後でプロジェクト化がされるが、今は遠い将来の目標として掲げる好機(石油の枯渇)なので、名称だけでも掲げる価値がある。「火星移民」も遠い将来の課題であるが、未だ適期ではないと思う。

画に向けてどう云う風にやってくかって云うのを議論してくんだと思います。あの、其処まで未だ深いやり取りってのは、未だされてないと理解して居ります。

青江: 此れからですネ。議論がありますネ。

池上: いやでもですネ、**夢です**⁴から此れ。

青江: 成程。

池上: 私も非常にネガティブだったんですけど、地球環境或いはエネルギー問題を議論してる中ですネ、**非常に余裕があれば**⁵、ああ云った処に打上げるってオプションもあるかなと、最近は一寸思ってるんですが、ただ、ご案内の通り 1 グラム約 1 万円でしたっけ、掛ると云う様な事で、其れが可能かどうか云うのは中々、やっぱ夢の中ではないかって云う風に思ってます。

松尾委員長: 検討を進めると書かれてる限りに於いては、何を検討しても宜しいんですけど、まあ、多少此のウェートの違いっ

⁴ エネルギー問題は夢物語ではない。必ず遭遇する事で、此れから暫くは原子力発電と水素(夜間の余剰電力で水を分解し、昼間のピーク電力に燃料電池で対応する)で支えて貰えるが、此れも永遠に続くものではない。その先にもエネルギーを沢山使いたいのであれば、今まで思い付く事が出来た中で宇宙太陽発電衛星以外の解は無い。

⁵ 一挙に走り出すことを前提にしているので「非常に余裕があれば」と云う言葉が出て来る。大きな金を使わずに、機会が来たら走り出せる様に準備を進める事は可能である。其れが今必要な事ではないか。

てのは、何か有る様な気が致しますですネ、前段の方と。

他は何かご意見御座いますでしょうか。まあ、大部分は従来宇宙開発委員会が意図して来てる処も重複してる様など御座いますので、まあ、特に 2 点のコメントが御座います。其れについて私の方で再度整理致しますと、GX ロケットに關しましては、所要の調査検討を行って、「平成 22 年度の概算要求時までには本格的開発着手に関する判断を行う」と云う、此の戦略本部の今後の進め方を了解する事としたいと思ひます。

それから災害監視衛星については、此処で申し述べた通りの方向で結構でありまして、確りと対応して頂きたいと、此の様に思ひます。でまあ、最初に申し上げました通り、その他の内容については特段の意見は無いと云う事で、まああの、ニュアンスの問題として、森尾委員或いは先程の青江委員のご意見等を、まあ、若干付け加えさせて頂くかも知れませんで云う事で御座います。以上で此の件宜しゅう御座いますか。

野本さん宜しいですか。宜しいですネ。

じゃあ、それでは終わらせて頂きます。

信濃参事官: はい、有難う御座いました。

松尾委員長: それでは此れで終了致します。どうも有り難う御座いました。